

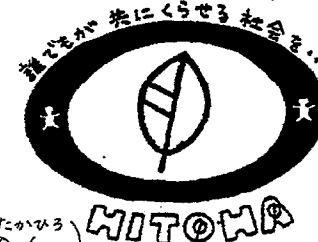
2025年(R7年)

2月

No. 391

ひと は 福 社 会

(ホムパージアドレス) <http://hitoha-fukushi.com> (メールアドレス) honbu@hitoha-fukushi.com



社会福祉法人 ひと は 福 社 会

〒739-1203

広島県安芸高田市向原町長田1857番地

TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

かつてない猛威を振るっているインフルエンザを警戒しながら過ごした1月が終わり、立春を迎え気持ちだけでも春に向かっていきたい季節です。みなさんいかがお過ごしですか。今年は「ひと は」にとって大きな節目の年になりそうです。

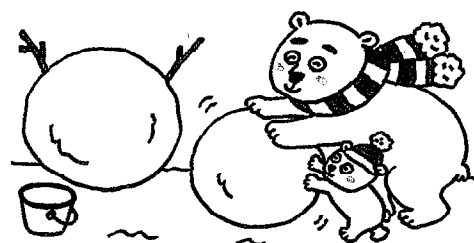
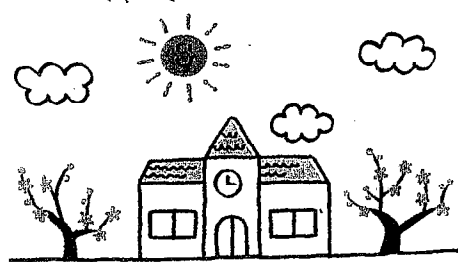
40年前のひと はが産声を上げた時、人間ホールのステージで「ぼくは、ずっと向原で暮らします。」と高らかに宣言した重慶伸明さんとの歩みを振り返ってみました。親御さんが亡くなられ一人暮らしになって18年、40年前の宣言通り今も変わらず自宅で過ごす重慶さん。70歳を超え体の衰えを感じるようになってからは、介護施設のデイサービスを利用しながら「ひと は」へ通所し、毎日ヘルパーさんに訪問してもらいながら日々を過ごしています。

先日自宅へ行った時のことです。若いヘルパーさんと一緒ににこにこ顔で夕食のおかずを並べています。(あんな笑顔の重慶さん最近見たことないなあ...) 彼の望む生活を支えていくことは、「ひと は」だけでも 家族だけでもできません。ましてや 福祉の制度だけでは到底できないことを、たくさんの人たちのつながりで作っていることを実感します。

節目だからこそ振り返って、今いる私たちの役割を、しっかり考える年にしたい。そしてできればこれからの「夢」を語る年になればいいなと思います。

私も「ひと は」と共に歩んで30年が過ぎ、たくさんの方々と出会いました。今年も新たな出会いを楽しみにしています。どうぞみなさん、「ひと はの里」へお寄りください。

(ひと は工房 伊藤 千代子)



計 報

ひと は作業所の建設から共同ホームの建設、現在のグループホームに至るまで、長年ひと はに携わ、てくださった茅野信義さんが令和6年12月15日ご逝去されました。

オーダーメイドの棚の作成、包丁研ぎ、木の剪定、「これが壊れました」「ここ直してもらえますか」の要望にすぐに応えてくださる職人のような方。お餅が好き、渋いお茶は苦手、食後は欠かさずアイスコーヒー。出勤前にコンビニに立ち寄った際、茅野さんと出会っていたスタッフは冬でもアイスコーヒーを手にされていた姿を見ていました。事務所で一緒に手話を勉強したり、自宅建築までお世話になったスタッフもいたり、茅野さんとのエピソードをひと はのスタッフはたくさん持っており、ここに書ききれないほど本当にたくさんのものを残してくださいました。ありがとうございました。(事務局 竹内宏美)

— 1月11日 とんどに参加! —

砂糖醤油をつけたお餅を見た平岡さんが、勢いよくお餅に顔を近づけられ、好きなものをまた一つ知ることができました。
(共同ホーム 井上 美恵)

長屋の亀井さんから「ずっとひと はにおってよ!」と言われ、指切りげんまんをしたことが とんどを忘れるくらい印象に残りました。とんどの火と同じくらい、温かさにながめくもりました。
(共同ホーム 田中 快斗)

ひと はがある長田地区やホームとしては年明けの恒例行事なんだろうが、地域住民の一人として準備から参加をしているとんどは、他の法人、施設ではなかなかお目にかかれないかもしれません。これも、ホーム、長屋が長田に住もうということを実践してきた証だと感じます。
(佐竹 正亮)

「ステキな旅になりますように☆」

ひ 11月下旬、作業所きらら旅行での見送り場面、西原さんのお母さんは、緊張した面持ちの息子さんを励ましながらか一緒に来られたよう。「頑張ってるからね」で出来ました。だけど、なかなかバスに乗れないね。」と少し心配顔。自分の気持ちに折り合いをつけるタイミングを見ながら声を掛けしているスタッフの様子も気にかけてながら、ドキドキしていました。すると、しばらくしてスタッフと一帯に乗り込むことができ、ホッと一安心。思わず拍手。また、福岡さんのお母さんは「弘子が靴を履くときに“うふふ♡うふふ♡”とご機嫌でした。年に1回のこの旅行だー！と感じていますよ」と話してくださいました。

(ひとは工房 岡崎 梓)

は ~旅行でのこと~ 雨風の中、バスから降りる時は小雨だった、1ポツリと止んだりと今回もラッキーな場面がありました。バスがひとはに戻り、旅行の出来事を話す家族の皆さん笑顔で聴き入ってくださいました。思い出が今年も増え何よりです。

(共同ホーム・ひとは作業所 井上 美恵)

「ホームに入所されて」

9月下旬、垣野内秀人さんは共同ホームに入所。その次の日、「秀人のことをよろしくお願ひします」と丁寧な挨拶を電話でされました。「お父さんも寂しくなりますね」と伝えると「本当です。家に帰っても誰もいないので寂しいです」と言われました。秀人さんが一般就労をされた時、一緒に会社に行き作業を教えていた時期もあったそうです。秀人さんが生まれてずっと寄り添って生きてきたお父さんの気持ちを考えると切なくなりました。

(ひとは工房 丸岡 洋二)

タ ~年末の忘年会~ 垣野内さんに「今年はホームに入所されましたね。生活はどうですか？」と聞くと、間髪入れず「柳さんがいるからいい！」と答えられました。(柳さんは共同ホーム 2年目のスタッフ)

(ひとは工房 伊藤 千代子)



「ひとは40周年を前に」

ひとはの1年は本当に早く、気付くと1年がすぎているということはいつもの事で、23歳で入職した私も気付けば46歳となりました。それだけ日々が充実していることだと思いつながり、もうアラフィフか...と振り返るところです。

入職当初所属していたのがひとは作業所のいきがいグループでした。当時「マルイ」や「向原ゴム」「向原電装」の内職をしていたことを思い出しますが、そんな中でも思い出深いのが「えがおたまご」です。世羅町までこだわりの卵を仕入れに行き、それをいきがいの皆でパック詰めして販売。『卵のパック詰めはいきがいでは難しいんじゃないか』そんな声をたくさん聞きました。『そんなことはない、みんなできるんだ』とそれぞれの力を信じて作業をスタート。卵を投げたり割ったりという事はほとんどなく、周りのバ配をよそに仕入れ・パック詰め・納品と充実した仕事となりました。私が作業所から異動して間もなく、その作業は(先方の都合により)なくなりましたが、しっかり作業できるみんなの力を周りに見てもらったことは今でも嬉しい思い出です。

(城崎 高治)

お知らせ

「めぐみのさまの国」
(さま展)

場所: 高宮田園パライオ
(安芸高田市高宮町佐々部957)

期間: 2/1(土) ~ 2/28(金)

※月曜日は休館日

谷川恵美さんが織ったさまの反物を飾ります。
入場無料。

編集後記

先日、夢の中に文尚さんが出てきた。どこかからの帰り道、動き出した車から窓の外を眺めていると、黒い傘を差して道端の掲示板を見つめている文尚さんの姿が。思わず「あ、文尚さん」と声をあげると、こちらの声に気付いて振り向き、片手を挙げた後歩いて行ってしまった。その表情は何となく清々しかったように思う。おそらく前日に古いひとはの写真を見たことが作用していたのだと思うが、何かメッセージがあったのだろうか？などと、起きてしばらく考えていた。

(白井 くみこ)